

本日は、一昨年五月の日本における世界宗教研究所と東洋哲学研究所の共同シンポジウムに引き続き、第二回目のシンポジウムの開催、関係者の一人として、心より御礼申し上げます。

この開催にあたり、世界宗教研究所の卓新平所長をはじめ、研究所の方々の今日までの御努力に、深く感謝いたします。また、御多忙の中、御参加くださいました先生方にも、深く御礼申し上げます。

さて、前回は、『法華経』の歴史的意義と二十一世紀における役割」をテーマにしましたが、今回は、そ

の成果を踏まえて、一步、「大乘仏教」へと拡大し、「現代文明」との関わりを論議することになりました。このことは、両研究所の学術交流が、着実に前進していることを象徴しております。

さて、当研究所は、一九六二年に、仏教、特に大乘仏教の精神によって、世界平和と人類の繁栄に貢献するために、池田SGI会長によって設立されました。設立の主旨について、池田先生は次の三点をあげております（『新・人間革命』第三巻）。

一 『法華経』を中心とした仏教の研究

- 二 アジアに関連する宗教——儒教、道教、神道、ヒンズー教、イスラム教、キリスト教、ユダヤ教等の比較研究
- 三 仏教の人間主義、平和主義の思想の世界への展開

であります。今回のシンポジウムも、当研究所の主旨にそったものであります。

さて、この機会に、池田先生が名誉会長である創価学会について、若干、ご紹介させて頂きます。創価学会は、一九三〇年、初代牧口常三郎会長と、第二代戸田城聖会長によって設立されました。牧口先生は、教育者として、人間の「幸福」と「価値」を探求され、「創価教育学」形成のプロセスで、日蓮仏教に出会いました。

日蓮仏教は、中国仏教、特に天台宗を基盤として、十三世紀に、日蓮によって確立されました。その所依の経典は、天台宗と同じく『法華経』であります。

牧口先生は、「価値論」、「創価教育学」の基盤に、『法華経』と日蓮仏教を置き、その根本精神を、当時の

日本において実現しようとした。しかし、当時の日本の軍国主義は、国家神道を精神的支柱として、中国、韓国をはじめ、アジアの諸国に侵略を繰り返しておりました。

軍部政権は、「治安維持法違反」で創価学会を弾圧し、牧口先生は、戸田先生とともに、投獄されました。そのため、牧口先生は、一九四四年十一月十八日に獄死しております。戸田先生は、獄中で中国から伝来した鳩摩羅什訳の『法華経』を思索し、その真理を探究しております。戸田先生は、一九四五年七月三日に出獄し、壊滅状況にあった創価学会の再建に入られました。

戸田先生の後をつがれた第三代池田大作会長は、初代、二代会長の意志をついで、大乘仏教の平和と慈悲と中道の精神を、広く、全世界へと発信されております。

中国との関係でいえば、その第一が、一九六八年九月、学生部総会での「日中国交正常化」宣言でありました。

その時の心境を、池田先生は、中国・中央テレビの

インタビューで、次のように答えています（一九八九年二月十九日）。

「当時、中国は孤立状態でした。しかし、中国には十億の人民がいる。中国との友好なくして、アジアの安定も、世界の平和もありえません。」

中国は日本の文化の「大恩人」の国です。その中国を侵略した罪を償わなければ、日本の正しき未来はない。そういう人道上の観点も強くなりました。

両国の人民のためには、今、勇気をもって、新しい歴史を開くしかない。あらゆる観点から考えて、日中の国交正常化は、平和のために実行すべき必然の進路であると思われました。」

第二に、池田先生と、周恩来、鄧小平、江沢民という三代にわたる中国の指導者との友好関係があげられます。

一九七四年十二月五日、池田先生は、北京の三〇五病院で、周総理と会われております。鄧小平氏とは二回、また、最近では、江沢民主席と会見しております。

中国人民対友好協会の韓叙会長に対して、池田先

生は、次のように述べております。

「中国は、『文化』や『仏教』の面はもちろん、多方面にわたって『大恩人』の国です。貴国なくして、今の日本はありません。」

その中国を、日本は傲慢にも侵略しました。永遠に消すことのできない残酷な歴史をつくってしまった。恥ずかしいことです。また、この戦争で、私の兄も戦死しました。多くの民衆が殺されました。私は日本の蛮行を、絶対に許すことはできません。

日本が、あれほどの被害を与えたにもかかわらず、戦後、中国は日本に対する賠償要求も放棄し、大きな心で日本との友情の道を開いてくださった。

貴国は『寛大』です。『信義』を守り、『礼節』を重んずる国です。このことを心から感謝してこそ『人間』です。

日本人は傲慢で、恥知らずであってはならない。『人間の道』を貫かねばならない。私はそのために戦っています。」

第三には、中国人民との民間次元での交流でありま

す。これまで、創価大学、民主音楽協会、東京富士美術館と、中国の大学や芸術機関との交流を深めてまいりました。東洋哲学研究所は、これまで、中国・旅順博物館との共同で、『旅順博物館所蔵梵文法華経断簡』を出版しました。

本日、参加している私どもは、先ほど紹介しました池田先生の精神を、学術交流の次元で体现したいと願っております。

池田先生は、また、敦煌研究所の所長であった常書鴻氏とは『敦煌の光彩』のテーマで対談集を出され、また、金庸氏とも『旭日の世紀を求めて』のテーマで対談集を出されました。

そして、現在、本日もご出席くださった季羨林先生、ならびに蒋忠新先生と、『東洋の智慧を語る』のテーマで対談されております。

そのなかで、季先生は、人類絶滅をも引き起こしかねない現代文明の危機を克服する思想として、中国の「天人合一思想」を宣揚されております。そして、池田先生が提示される仏教の「大宇宙即小宇宙」の思想と

の根源的「同一性」を論じられております。

季先生は、中国のことわざ、「三十年河西、三十年河东」を引かれて、西洋文明の成果を踏まえ、それを止揚しつつ、東洋文明が再び光を放つ時代になることを、力説されております。

本日のシンポジウムが、二十一世紀、新たな千年における、東洋思想の興隆と新たな地球文明創出の一翼を担う貴重な学術会議となることを、念願しております。

（かわだ よういち／東洋哲学研究所長）